3 緑の雇用担い手対策事業

「緑の雇用担い手対策事業」とは、林業就業者の減少と高齢化が進む中、三年間の安定的かつ集中的な研修を行うことによって、多様な技術、技能を身につけた地域林業の担い手を早期に育成する事業です。ここでは、実際に三年間の研修の中で、どんなことを学び、どんな技術を習得し、プロフェッショナルへの道を歩んでいくのか、具体的な研修内容を一年ごとに紹介していきます。

一年目の研修について

林業で働くために必要な基礎を習得するのが一年目の研修です。集合研修は約二〇日間にわたって行われ、安全に就業するための講習や基本となる知識、技術を身につけます。また実地研修は一八〇日間を上限に行われ、事業体の熟練者が林業の現場で研修生の指導に当たることになります。一年目の研修で学ぶのは、伐採後の地面をきれいに地ごしらえして、苗木を一本、一本ていねいに植え付けていく「植え付け作業」（主な苗木はスギ、ヒノキ、カラマツ、エゾマツなどの針葉樹）、植え付けた苗木の生育を周囲の雑草木が妨げないように刈り取っていく「下刈り」、木々が成長しすぎて混み合い、太陽の光が届かなくなった森林内の木の一部を伐採し、密度を調整する「間伐」などの作業です。実地研修で本格的な作業を安全に行うためにも、集合研修で基礎知識を学ぶことが大切です。

二年目の研修について

二年目の技術高度化研修では間伐材などの伐出作業が必要な人工林で実施され、一年目の基本研修を修了した人が対象になります。ここでは風倒木やかかり木の処理など、より高度な技術、技能を学ぶために一〇〇日間程度の研修が行われます。その内訳は、風倒木処理を学ぶ研修が約二〇日間、人工林内のかかり木処理の研修が約八〇日間です。台風によって発生することが多い〝風倒木〟は重なって倒れている場合が多く、通常の伐木作業に比べて、細心の注意が必要とされます。伐倒時の木のはね返りなど危険も伴う作業で、ワイヤロープ、チェーンソー、フェリングレバーなどの器具が必要となります。同様に〝かかり木処理〟も高度な技術が要求される作業です。間伐作業によっても発生する〝かかり木〟を通常の状態に戻すためには正しい手順と適切な器具が必要です。二年目の研修ではこのようなプロフェッショナルなスキルと知識を身につけていきます。

三年目の研修について

三年目の森林施業効率化研修は一年目又は二年目研修を修了した人が対象となり、間伐が必要な人工林で実施されます。これは低コスト作業システムなどの効率的な作業に必要な技術を身につける研修で、集合研修が約一〇日間にわたって行われます。ここでは森林の評価手法や、集約化のための施業プランの提案など効率的な施業に必要な知識等を学びます。人工林における実地研修は約一四〇日間です。低コストで効率的に森林整備を行うための技術をフォワーダやハーベスタ、プロセッサなど高性能林業機械を実際に使って学んでいきます。間伐材を有効利用するために伐った木材を山から搬出し、枝を払い、適当な長さに切りそろえていく造材、運材などを機械を使って行います。また、高性能機械が運行できる作業路の開設など効率的な作業システムを習得します。

4 緑の研修生&指導員の声

「緑の雇用担い手対策事業」を取り入れている秋田県の有限会社 門脇木材。そこで働く〝緑の研修生〟と指導員の方にインタビューをしました。前職との違い、研修で学んだこと、森林で働くことの魅力などを語ってもらいました。

西宮正利氏
研修１年目

以前は建築資材会社で建設業者への資材販売と配達をしていました。門脇木材へはハローワークの求人募集を見て入社し、最初は製材部門で働いていたんです。山の中での仕事に興味を持ったので、今の部門への異動を願い出ました。研修で初めて刈払機やチェンソーを触ったんですが、すべてが勉強ですね。私は体がもともと細いんですが、日々、自然の中で作業することによって持久力がつきました。今後は自分が手掛けた山の成長が楽しみです。

佐藤賢太郎氏
研修１年目

門脇木材でアルバイトをさせていただいて、山の仕事に興味をもって入社しました。以前は農業を営んでいたんですが、門脇木材では会社の仲間と一緒に協力しながら作業することが楽しいです。研修で学んだことは仲間づくりと競争心の芽生えですね。今、研修では班長をやっていて大変ですが、りっぱな“山の職人”になることを目指してがんばっています！

若松昌樹氏
研修３年目

以前、農業兼土木作業員をやっていて、たまに刈払機やチェンソーを使っていたので、もともと林業には興味があったんです。体力的にはつらいですが、農業とは違って確実に収入を得られることは大きいですね。研修を受けたことによって、仕事に対する責任感が強くなったと思います。森林の中では常に安全に、そして確実に作業することを心がけています。今後の目標としては、造林、伐採の両方ができるようになりたいと思っています。

菊池鉄信氏
研修２年目

以前は妻と２人で縫製工場を経営していました。定期的な収入を確保したいと思い、工場は妻に任せて、門脇木材に入社することを決めました。以前やっていたことと、今の仕事とでは全然違いますね。もともと山の中に入って山菜を採るのが趣味なので、足腰は大丈夫なのですが、腕は少し疲れますね（笑）。研修ではかかり木を安全に処理する方法や、自分と仲間の安全を確保することを学んでいます。

松田吉生氏
指導員

山の手入れを祖父に教わっていたこともあり、若いときから林業を身近に感じていました。林業は短いスパンではなく、50年、100年先を見ていく仕事なので、一代で終わらせてはいけないと思うんです。この仕事は先祖を敬うということともつながっていると思います。先代が一生懸命、手入れした山を放置したままにしているのは申し訳ないし、荒れたままにしていたら、未来は大変なことになってしまいますよね。そういう気持ちでやっていれば環境の問題は自然と後からついてくると思っています。林業に向いている人ですか？いちばん大切なのは信念とやる気ですね。体力も必要ですけど、今の林業は機械化が進んでいますから作業に慣れていけば心配はありません。研修生たちがどんどん伸びていって一人前になっていくのを見ているのが楽しいですね。

5 「森林の仕事ガイダンス2009」開催！

森林の中で働いてみたい人、林業に興味を持っている人に向けて、来年の一月に大阪と東京で「森林の仕事ガイダンス２００９」（平成二十年度全国の森林の担い手就業相談会・共同説明会）が開催されます。

このガイダンスは、日本の森林の現状や森林整備の重要性を多くの人に知ってもらい、森林の再生に向けて若く元気な人材が求められていることを一般市民に対してアピールしながら、林業の新たな担い手を確保し、その育成を図ろうとするものです。

会場では実践派森林研究家としても注目を集めている寺門ジモンさんと、東大農学部出身で森林関連の仕事にも多く携わっている葛城奈海さんによる「森林の大切なお話」トークショーが実施されるほか、各都道府県の林業労働力確保支援センターなどが、「緑の雇用」などに関する情報提供や相談に応じる「都道府県相談ブース」を出展します。また、幅広い人たちに森林・林業について知ってもらうため、一本の丸太から作るダイナミックなチェーンソーアートの実演や林業体験も予定されています。

前回のガイダンス

大阪会場での概要

■開催日時

2009年1月　9日（金）　12:00～18:00
2009年1月10日（日）　10:00～17:00

■場所

ステラホール（梅田スカイビル）

■相談ブース数（参加都道府県）

福井、三重、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山、鳥取、島根、広島、山口、徳島、香川、愛媛、高知、熊本、大分、宮崎、佐賀、鹿児島（計21ブースを予定）

■寺門ジモンさんと葛城奈海さんによる「森林の大切なお話」トークショーのスケジュール

◎1月9日（金）15：00～
ゲスト：天野礼子（アウトドアライター）
「林業再生へのケーススタディ」
◎1月10日（土）13：00～
ゲスト：水野雅夫（NPO法人　Woodsman Workshop代表　林業トレーナーズ協会（Trainers Association of Forestry）代表）
「今、知って欲しい森林の話」

東京会場での概要

■開催日時

2009年1月23日（金）　12:00～18:00
2009年1月24日（土）　10:00～17:00

■場所

アキバ・スクエア（秋葉原UDX）

■相談ブース数（参加都道府県）

北海道、青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島、茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川、新潟、山梨、長野、静岡、三重、和歌山、愛媛（計21ブース予定）

■寺門ジモンさんと葛城奈海さんによる「森林の大切なお話」トークショーのスケジュール

◎1月23日（金）15：00～
ゲスト：鳥越俊太郎（ジャーナリスト）
「将来における林業の重要性」
◎1月24日（土）13：00～
ゲスト：相根昭典（非営利中間法人 天然住宅アンビエックス代表、一級建築士）
「国産材で家を建てよう！」

※「森林の仕事ガイダンス2009」問い合わせ先：「森林の仕事ガイダンス」運営事務局
☎03-6804-1633（受付時間10:00～18:00／土・日・祝を除く）